

いのち 生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

第37回

つくば市母親大会

2017年6月18日(日)

市民ホールとよさと・豊里交流センター

(つくば市高野1197-20)

受付 9:30~

分科会 10:00~12:00

全体会 13:00~15:30

運動報告

映画「校庭に東風吹いて」上映

分科会

- ①私たちのつくば市を子育てしやすい街に!
- ②こんなに変わった!介護保険制度
- ③沖縄でいま、何が起こっているか
- ④測ってわかる大気汚染“NO₂”



校庭に東風吹いて

沢口靖子

岩崎未来 向鉢鳥 遠藤久美子 栄子

ひし美ゆり子 鶴尾康史 緋キララ 本間淳志 仁科貴 大塚まさじ 森日菜美

村田雄浩 星山里子

原作:柴垣文子 (新日本出版社刊)

資料代

一般	1,000円
小中学生・障がいをもつ方	500円

- どなたでも(男性でも)参加できます
- 昼食を販売します
- 保育あります(要予約)

(会場地図)

市民ホールとよさと・豊里交流センター



主催: つくば市母親大会実行委員会 つくば市竹園2-10-1 tel.029-852-4118(昼間)
後援: つくば市・つくば市教育委員会・つくば市社会福祉協議会

映画「校庭に東風吹いて」は、場面緘黙症の心の悲しみを抱えた少女、貧困から様々な問題を引き起こす少年の絶望と苦しみなどを子ども達の困難に寄り添い、子どもと共に生き、子どもへの愛情を貫いた教師の感動の物語です。

ものがたり三木知世は、転勤で小学3年のミチルのクラスを担当する。ミチルは、家では少し話せるのに学校では話せない。一人でトイレに行けない、一人で給食を食べられない、歌えない、絵を描かない……。「場面緘黙症」の疾患をもつミチルに、知世は愛情を持って接する。同じクラスに、問題行動の多い安川純平がいる。離婚した母親の理恵と純平は貧しい生活を送っている。教室に飛び込んで来た青いインコを巡ってミチルと純平は幼い友情を芽生えさせる。しかしある日インコが逃げ出してしまう……。様々な問題に奔走する知世は、子ども達の<涙>を<希望>に変えることができるのだろうか。

分科会 10:00~12:00



第1分科会

私たちのつくば市を子育てしやすい街に！ — たった一人の子どもを育てるのに 村が一つ必要なんです —

つくば市に引っ越してきて子育てしやすい街だと聞いていたのに全然違う！そんな声が聞こえました。教育日本一を掲げるつくば市。教育とは何か？本当の意味で子を育むとはどういう事なのか？新教育長が語る「たった一人の子どもを育てるのに村が一つ必要」の意味は？社会力の必要性とは？みんなで話し合い、考えてみましょう。

<助言者>
門脇厚司さん(つくば市教育長)

第2分科会

こんなに変わった！介護保険制度 — 高齢者の安心が遠のく介護の現場 —

「社会全体で高齢者の介護を支えよう」とスタートした介護保険制度。保険料は導入当初の約2倍になり、利用料も1割から2割になりました。要介護3以上でなければ特養には入れない。必要でも介護を受けられない現実。「介護が必要になったら考える」では間に合いません。高齢者が安心して暮らすことのできる社会をご一緒に考えましょう。

<助言者>
中山弘子さん(茨城保健生活協同組合理事)

第3分科会

沖縄でいま、何が起こっているか — 憲法の視点から考える —

在日米軍基地の75%以上が置かれている沖縄。その沖縄で、いま、一体何が起こっているのか。辺野古・高江の基地建設反対運動について、これに参加した方々にお話を聞いて頂きます。沖縄だけでなく、本土に住む私たちにとっての平和や人権の問題、地方自治の在り方などと、どう連なっているのか、助言者の方の意見をお聞きしながら、参加者が自分の問題として考えたいと思います。

<助言者>
福富美穂子さん(弁護士)

第4分科会

測ってわかる大気汚染“NO₂” — 自自分で分析してみよう —

「子どもたちに青い空を」と新日本婦人の会では大気汚染の目安になる“NO₂”(二酸化窒素)を毎年6月に、全国一斉測定しています。つくば市内70か所で簡易カプセルに集めた空気中の“NO₂”を分析してみましょう。実態を知って知らせて、ライフスタイルを考え、交通体系やまちづくりに生かしましょう。小学生は大人と一緒にご参加ください。

<助言者>
野津祐三さん
(筑波総合科学研究所代表・環境計量士)

母親が変われば社会が変わる！



母親大会の
はじめ

1954年、太平洋上の水爆実験によってマグロ漁船が被曝しました。広島、長崎につぐ3度の被曝に母親たちは怒り、平塚らいてうらが全世界に向けて「原水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会が開かれました。世界大会には、河崎なつを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

母親大会の
あゆみ

帰国後の報告会が全国各地で数千回にわたり開かれ、母親運動、大会が広がりました。「子どもたちを小児まひから守るための生ワクチンの輸入、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成の教育問題」など母と子をとりまくさまざまな問題にとりくみ、成果を挙げながら60年余をあゆみつづけてきました。

つくば市母親大会は1981年第1回目を竹園高校で開き、今年は37回目を迎えます。

母親・女性の願いや要求を語り合い、明るい未来をつくりましょう。